



今富っ子

小浜市立今富小学校
平成30年11月20日
=11月号=

ステキなモデル、モデルを見る目が育ってきました



先日のマラソン大会では、保護者・地域のみなさんには、交通指導ボランティアをはじめ、たくさんの方の応援をいただき、ありがとうございました。

昨年に引き続き、明け方まで降った雨の影響で、グラウンドは水浸しの状態。しかし、登校してきた児童からグラウンドへ出て、主体的に水取りをしてくれました。高学年はもちろん、四年生・三年生まで出てきて、限られた時間の中で少しでもよいグラウンド状態にして、大会を迎えようというがんばりました。その数は、昨年を遙かに上回る人数。昨年の高学年の水取りをする姿が、モデルとして子ども達に残っていたようです。

大会が始まると各色に分かれての応援。ここでは五年生が中心となり、ステキな応援を繰り広げました。昨年の五年生(現六年生)の応援する姿が、モデルとして五年生に残っていたようです。

よいモデルの姿が受け継がれ、広がっていくことで、学校文化として根付き始めたように感じます。

閉会式では「はぴのろう」が登場し表彰を行います。

いました。突然の登場に低学年は思わず立ち上がって大盛り上がり。すると、体育委員の子ども達が「一年生、二年生座って」とすべに注意。どうすべきか主体的に考えすべに行動へと移せる子ども姿がありました。

次の日の小中音楽会校内発表会。五年生がピツタリと息の合った、素晴らしい合唱・合奏を聴かせてくれました。

その発表を聞いた下学年からは、「私も五年生になったら、今日の五年生のように息の合った演奏ができるようにしたい」という振り返りが聞かれました。五年生の姿がよいモデルとして残ったようです。と同時に、下学年にモデルとなる姿を見つけてよつとする目(意識)が育ってきたようです。

また、六年生からは、「演奏前後のバチの持ち方まで意識できていてよかった」という振り返りが述べられました。昨年度の自分の経験と照らし合わせた振り返りができることに、六年生の成長を感じることができました。

『子どもがモデルとなる学校』づくり。少しずつ、子ども達の姿となって現われてきているよう

校長の 独り言



グラウンド状態が悪い中でマラソン大会の実施。白い体操服に茶色い水玉模様のハネが飛ばし飛び散り、その汚れを落とすことに苦労をされた保護者の方も多かったと思います。我が家でも、子どもが小さい頃、水玉模様の泥を「コシコシ」とこすって落とすながら、「この汚れを落とすのが本当に大変」とぼやいていた妻の姿が目に残ります。こんなグラウンド状態でマラソン大会を実施した私は『保護者の敵』となっていると思います。

マラソン大会は体育大会と異なり、グラウンドを走るのスタートとゴールの時だけでなく、少々、グラウンドの状態が悪くても実施したいと考えます。また、中学校や高校で学校行事や部活動に取り組んだり、社会人として仕事をしたりしたときに、いつもベストな環境で活動できるかと考えてみると、そうでないことの方が多いです。環境が十分に整っていないことも、前向きに取り組もうとする体験も大切です。その体験学習をする機会が、今回のようなマラソン大会と考えます。限られた時間の中で、できる限り環境を整え、一生懸命に大会を運営する、全力で走りきる、大きな声を出して応援する体験をしたことで、子ども達が感じたこと、考えたこと、学んだことは多いと思います。これがよい経験となつて、どんな環境であっても、前向きに取り組もうとする気持ちが育つていくと考えます。

こんな考えをする私はやっぱり『保護者の敵』ですよ。

でも、あの空模様のマラソン大会当日、子ども達はみんな運動靴で登校していました。マラソン大会があっても大丈夫なように、お子さんに運動靴を履かせて登校させてくださった保護者のみなさんに感謝です。ありがとうございました。



結婚式のブーケとしても人気の『ネリネ』です。ギリシャ神話に登場する美しい水の妖精ネーレーイスの名にちなみます。花に日が当たると宝石のようにキラキラと輝くことから「ダイヤモンドリリー」とも呼ばれます。

『ネリネ』の花言葉は「輝き」です。子ども達は10年後、20年後、社会へ出て「輝き」を放つ原石です。家庭・地域・学校の三者が一緒になって、ステキな「輝き」を放つダイヤモンドへと磨いていきましょう。

今年も、担任以外の先生が読み聞かせをしました～



ご意見・ご感想をお聞かせください。

〈キリトリセン〉

お名前 ()

文責：山名 聡